

(様式第1号) (第2条16号関係)

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング有限会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 令和3年7月28日から令和3年12月1日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B16021、B18014、050482	

2 福祉サービス事業者情報（令和3年10月現在）

事業所名： (施設名) 長野市東条保育園	種別： 保育所	
代表者氏名： (管理者氏名) 市長 荻原 健司 保育・幼稚園課長 島田 みち代	定員（利用人数）： 60名（56名）	
設置主体： 長野市	開設（指定）年月日： 昭和48年4月1日	
経営主体： 長野市		
所在地：〒381-1221 長野県長野市松代町東条2448-1		
電話番号： 026-278-5100	FAX番号： 026-278-5100	
電子メールアドレス： —		
ホームページアドレス： http://www.city.nagano.nagano.jp/		
職員数	常勤職員： 12名 非常勤職員： 15名	
専門職員	(専門職の名称) 名	
	・園長 1名	・給食調理員 2名
	・保育主任 1名	・看護師 1名
	・保育士 10名	・子育て支援員 2名
施設・設備 の概要	(設備等)	(屋外遊具)
	・乳児室 … 2室 ・保育室 … 3室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 1室 ・支援センター … 1室	・6角はん登棒 ・雲梯

3 理念・基本方針

○長野市保育理念(保育所型認定子ども園を含む)

子どもの健やかな心身の発達を図り、望ましい未来を作り出す力の基礎を培う。

○児童福祉法に基づき、保育を必要とする子どもを保育することを目的とする。

○子どもの最善の利益を考慮し、その福祉を積極的に増進する。

○長野市保育基本方針

- 安全で安心できる生活の場を整え、子どもが自己を十分に発揮できるようにします。
- 専門の資格を持った職員が養護と教育を一体的に行い、子どもの発達を援助します。
- 保護者の気持ちを受け止め、共に子育てをします。
- 家庭と連携を図りながら、子育ての悩みや相談に応じ助言するなど、地域における子育て支援の拠点として、社会的役割を果たします。
- 保育を実践するにあたっては、「全体的な計画」に基づき、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開します。

○東条保育園 保育目標

- 行ってみよう!やってみよう!
- おもいっきりあそぼう!
- 育てて作っておいしく食べよう!

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

東条保育園は長野市が直接運営する 28 保育園(内休園 2 園)と 2 認定こども園のうちの一つで、昭和 48 年 4 月に開設されて以降、長野市が運営している。

当保育園の前身は季節保育園で、東条地区自治会の強い要望及び協力により、当時湿地帯であった土地を埋め立て、整地を行い、昭和 48 年 4 月 1 日に児童福祉法による通年型の保育所として認可され、新たに長野市東条保育園として発足した。平成 19 年 6 月には当保育園の一角に地域子育て支援センターが開設され、園長がセンター長を兼務している。

当保育園は市内の南東部の松代地区にあり、周りは自然が豊かで、子どもたちの遊びのフィールドは広く、散歩コースも多岐に亘っている。当園はピラミッド伝説のある皆神山の北の裾野にあり、東には菅平高原に続く奇妙山や尼巖山などの山々が連なり、西には、滔々としていずれは信濃川となる千曲川が流れ、それにより肥沃な土地となった川中島古戦場のある通称川中島平が広がり、北アルプスなども望むことができる。また、東西に通じる県道と南北を貫く蛭川とが交差する所があり、周辺には水田や畑も広がり、東側の傾斜には杏畑があり、春にその花が咲くと当たり一面が霞のようなピンク色に染まり花の名所となっている。初夏には隣接する東条小学校周辺に蛍も舞っている。現在、当園のすぐ西側には長野市から上田市菅平に続く国道のバイパス工事が進められており、完成の暁には周辺のアクセスが更に便利になるものと思われる。

そうした中、当園では平成 28 年 10 月に「信州の豊かな自然環境と地域資源を活用した、屋外を中心とする様々な体験活動を積極的に取り入れる保育・幼児教育」の「信州型自然保育(信州やまほいく)」の団体として普及型の認定を受け満 5 年が過ぎ、今年度、既に再度の認定を受けている。当保育園のお散歩マップ(自然保育マップ)には神社や公園、池、田んぼなどのあぜ道、土手、小学校、老人福祉施設、障がい者の通所事業所などがマークされイラストや写真なども貼られている。四季折々の自然や動植物に親しみ、また、地域の人々と挨拶を交わし様々な自然体験や社会体験、生活体験をしている。

多くの子ども達の居住区である松代町東条地区は昔からの農村地帯で祖父母と同居したり、同じ敷地内に暮らしたり近くに居るなど、子どもを地域の宝として育てようという子育てに協力的な風土があり、昨年春から新型コロナ感染防止のため自粛せざるを得なくなっているが、例年であれば子どもたちも地域の老人クラブ会員から野菜の苗植えや芋ほり、焼き芋大会、しめ縄づくり、まゆ玉づくり、どんど焼きなどの指導を受け交流している。一方、昭和 40 年代後半から昭和 50 年代前半に開発された団地があり、当時働き盛りであった人たちも 60 代後半から 70 代・80 代と高齢化が進み、空き家も増えているという。

当保育園の隣には園の多くの子どもたちが就学する東条小学校があり、「長野乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針Ⅱ「育ちをつなぐ」の「幼・保・小の連携」の「小学校との連携の充実」に

沿い、例年であれば年長の子どもたちはその小学校の児童と交流し、小学校の音楽会、運動会などの様々な体験をしているが今年度は新型コロナの影響を受け休止せざるを得なくなっている。

現在、当園には0歳児2名・1歳児5名・2歳児7名の一寸法師組、3歳児15名の桃太郎組、4歳児3名と5歳児10名の金太郎組、4歳児3名と5歳児11名の浦島太郎組の四つのクラスがあり、それぞれの子どもの発達段階に合わせて作成された令和3年度の「全体的な計画」を基に、園の目標、「行ってみよう!やってみよう! おもいきりあそぼう! 育てて作っておいしく食べよう!」に沿い、一貫性を持って子どもの実態に応じた柔軟な保育を展開し、子どもが主体的に、また、自己を十分に発揮できるように援助し、小学校からその先の「生きる力」の基礎を培う保育としての位置付けを意識し全職員が懸命に取り組んでいる。

また、当園には長野市が運営している七つの地域子育て支援センターの一つが園舎の一角にあり、新型コロナの影響で縮小気味ではあるが、就園前の子どもとその保護者が気軽に遊び、交流したり、子育ての情報交換をしたり、常駐の職員が子育てに関する相談にのるほか、例年であれば各種講座なども開催し、地域の子育てネットワークの中心となって子育て応援をしている。現在、新型コロナ禍の対策として一日4組(午前2組、午後2組)の電話予約制としており、例年であれば10組前後の利用があり人気のスポットとなっていたことから早期の新型コロナの収束が待たれるところとなっている。

更に、当保育園では保護者の仕事と子育ての両立等を応援するため、そのニーズに合わせ多様なサービスを提供しており、長時間保育や一時預かり、障がい児保育等を実施している。長時間保育は時間外保育を必要とする際に利用するサービスで定期的に利用されている保護者が早朝は15名前後、夕方は20名前後となっている。また、一時預かりについても保護者の就労・保護者の疾病・保護者の育児に伴う心理的、肉体的負担の解消等による預かり保育を行うサービスで、当園でも受け入れ可能枠があれば希望に応じて支援している。障がい児保育は保育を必要とする心身に障がいを持つ子どもの保育を行うサービスで、園児との遊びや給食を通して子ども同士の交流を行い心身の発達を促すという内容になっている。

当園では「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しなのキッズ」及び「子ども・子育て支援事業計画 ～わくわく子育て すくすくこども～」に沿いビジョンを明確にしており、今年度からの中期計画として、平成28年に認定を受けた信州型自然保育(信州やまほいく)の更新認定と充実、福祉サービスの第三者評価の受審、長野市運動プログラムの充実、運動と遊びのプログラムの活用で運動機能の育成を図ること、幼保小連携の充実を図ること等を掲げ積極的に取り組んでいる。職員も「保育内容の充実」として当園の事業計画に重点課題として挙げた、自然を生かした保育を行うことや地域資源と人材を生かした保育を行うこと、異年齢保育の充実、小学校との連携の推進などに前向きに取り組んでおり、新型コロナ禍でオンライン開催が多い園外の研修会や園内研修に参加し、一人ひとりの子どもとの継続的な信頼関係を築けるように必要とされる知識や技術のブラッシュアップに努めている。

5 第三者評価の受審状況

受審回数(前回の受審時期)	今回は2回目(平成30年度)
---------------	----------------

6 評価結果総評(利用者調査結果を含む。)

◇特に良いと思う点

1)子どもの主体性を育て自己肯定感を高めるための保育

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の目標「かがやく笑顔で 元気に遊ぶ しなのキッズ」の中で「『かがやく笑顔』は、子どもが自己肯定感、情緒の安定、自信を獲得した姿を表しています。そして、このことを基礎に、知識欲、興味、関心を育てていきます。」としている。

当園として子どもたちが一人ひとり考えて行動できる力を身に付けられるように工夫した保育を計画し、実践している。職員は言葉による指示を減らし、イラストなどの視覚教材を使い、「見て、理解し、考えて」行動できるよう援助を行っている。幼児クラスでは前日に翌日の活動計画をボードの文字やイラストで伝え、子どもたちは翌日の行動を知り自分でできることを考

え、やる気に繋げている。4・5歳児の2つのクラスでは混合保育を行い、また、その中でグループ分けを行い生活する中で、異年齢の助け合いや学ぶ姿が育っている。更に、年長児は当番制でグループリーダーを決め、友達との連携を通して責任感が生まれ、一人ひとり考えて行動する中から満足感と達成感を感じている。

職員も子供の自主性を高めるための研修を行い保育の向上に努めており、新型コロナウイルスの影響を受け園外の研修が自粛ぎみとなっている中で、障がい児や障がい者に造詣が深い講師による研修から学び、言葉がけを必要以上にせず、視覚教材を取り入れ、見て、自分の力でやってみようとする主体性を育てる保育を行っている。また、園として「お話の世界」を発行し絵本の紹介を保護者に行い、絵本の楽しさ・良さを子どもたちや親に伝え関心を高め、その絵本から多くの教えを導くようにしている。更に、職員は日々の保育の様子を動画に撮り、特に、年長の子どもたちに見せることにより、友達との遊びなど様々な活動を通して、自己の存在感を確認しながら、自己と他者との違いに気付き、他者への思いやりを持つようにし、保育者自らも子供たちとの関わり方を振り返る機会とし、改めて保育の奥深さを感じ、職員同士で学び合っている。

人や物との出会いの中で様々な感情や考えが芽生え、多様な体験を積み重ねていく中で、子どもの心は成長していくと言われ、その過程を保育士等が見守り、受け止めることによって、子どもの自己肯定感が育まれていくとも言われている。保育士等が主体としての子どもを認め、肯定する気持ちを言葉や態度で子どもに伝えることにより、子どもが自分への自信を得られるように職員間の連携を取り保育の向上と子供たちの心身の成長に繋げている。

2) 保育の質の向上へ向けた課題の明確化と自己評価

当保育園では年度末の事業計画の振り返りの際に、SWOT方式(Strength=強み・Weakness=弱み・Opportunity=機会・Threat=脅威等の現状分析を行う経営戦略策定方法)で課題を洗い出し改善点を明確化し、職員参画の下で次年度の事業計画を作成している。職員も保育園の強み、弱みを知り、保育園の方向性や課題が明確になることで共通の認識を持ち、一人ひとりの業務内容の改善に繋げ、園全体で保育の質の向上を図っている。

年度初めの職員会議では園長から新年度の「事業計画」について文書で説明がされ、職員一人ひとりの年度毎の業績評価でも、当園の目標に準じて、具体的な達成時期や回数等を定め、実現しやすい目標にしている。更に、職員は日々の保育を振り返り週日案に記録し、年間指導計画、月案で保育の状況を振り返り「自らの保育」についても自己評価を行い、次年度、次月、次週へと繋げており、保育士として主体的に保育実践の改善や専門性の向上に努めている。年度末には子どもの姿を職員間で確認しながら全体的な計画の立案に反映させている。

保育所の自己評価は、通常、一年のうちで保育活動の区切りとなる適切な時期を選んで実施している。そのため、日頃から保育の実践や運営に関する情報や資料を継続的に収集し、職員間で共有することが必要となってくる。資料には、保育記録をはじめ、保育所が実施した様々な調査結果、あるいは保育所に寄せられた要望や苦情等も含まれる。職員間の情報の共有や効率的な評価の仕組みをつくるために、情報通信技術（ICT）などの積極的な活用も有効であるとされている。自己評価の結果については、具体的な目標や計画、目標の達成状況、課題の明確化、課題解決に向けた改善方策などを整理したり、自己評価の結果を整理することで実績や効果、あるいは課題を明確にして、更に質を高めていくための次の評価項目の設定などに生かしていくことも重要であるされている。

当保育園では事業計画については4月の園だより、全体的な計画、事業計画などを年度当初に配布し、また、保護者の集まる機会に動画や写真などの映像を用いて、視覚的に保護者に周知できる工夫をしている。また、事業計画に繋がる保育の場面をクラス担任が文章・イラスト・写真を交え、毎日玄関のボードに掲示し、保護者が保育を理解しやすいように工夫をしている。園として独自の保護者アンケートを年2回実施しており、計画の実施状況についても設問として挙げ、その分析結果を保護者にもフィードバックし、また、職員会でも結果を検討し、次の課題とし改善に繋げている。

保育園全体として、保護者アンケート結果を踏まえながら、福祉サービス第三者評価の「内容評価項目」に準じた職員の自己評価も行い園全体の評価に繋げており、定期的実施している第三者評価結果の公表や情報提供によって、自らの保育とその運営について、保護者や地域との継続的な対話や協力関係づくりを進め、信頼される開かれた保育所づくりに役立てていこうとしている。

3) 豊かな自然環境を取り入れた保育

「長野市乳幼児期の教育・保育の指針」の基本方針の「取組の方向性 I-1 自然環境を活かした体験活動の充実」でも「命の大切さ、ものの美しさに気付く豊かな感性を育む」、「見て、触れてなど、全身の感覚を使って体験ができる環境を整える」、「信州型自然保育認定園を増やす」の三つを掲げており、当保育園でも生命や自然についての興味や関心を育て、命の大切さ、ものの美しさなどに気づく豊かな感性を育てている。

当保育園は日本のピラミッドとして有名な皆神山の北麓に立地し、園周辺には田畑が広がり、小川も流れていて豊かな自然に囲まれている。今年度 2016 年に認定を受けた「信州型自然保育(信州やまほいく)」の 5 年ごとの更新に際し再認定を受け、屋外での遊びや運動を中心に様々な体験を深め、知力と体力も同時に高めることができるようにし、毎日の生活の中で園目標「行ってみよう!やってみよう!」「おもいっきりあそぼう!」「育てて作っておいしく食べよう!」を十分に取り入れた保育が行われている。

春は東に見える奇妙山中腹の杏の花や実を楽しんだり、園庭の桜の花の下で給食を食べたりと楽しい時を過ごしている。夏はプール遊びとともに園舎の周りの小川へ入り沢蟹や小魚を探し、園に持ち帰り飼育観察を行い、夏野菜(ミニトマト、キュウリ、ナス等)も栽培し、生長観察や収穫を体験し、給食へも取り入れている。秋は散歩に出かけ紅葉や木の実を見つけ制作にも繋げている。また、畑で育てたサツマイモを収穫し、落ち葉を集め焼き芋会を行い、楽しく美味しく味わっている。冬は寒さに負けず体を動かし園付近の散歩先の土手でそりあそびを楽しんでいる。子どもたちは四季の移り変わりを体感し、自然と共に成長をしている。

また、毎日の体操、マラソン、戸外遊びを十分に行い、体を動かして遊ぶ楽しさを感じている。散歩に出かける機会を多く持ち、目的を持った「とことん散歩」、のんびりと歩く「ぶらぶら散歩」を行い、体幹づくりや自然の変化を感じながら、友達との関わりを深めている。

新保育所保育指針でも「自然との関わり・生命尊重」として「自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切にすることをもちかえり関わるようになる」としており「子どもが現在を最も良く生き、望ましい未来をつくり出す力の基礎を培う」ことの目標の一つとしても掲げている。

当保育園としても 2021 年度からの中期計画に信州型自然保育(信州やまほいく)の更新と充実を掲げており、子どもが、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など、自然の中にある音、形、色などに気づき、それにじっと聞き入ったり、しばらく眺めたりすることで、その対象に心を動かされたり、様々なイメージを広げたりできるように自然と接する様々な機会を作り援助している。

4) 地域の人々との交流

当保育園では思いやりの心を育てることを目的に、地域の様々な人々との交流を図り、子ども自ら周囲の子どもや大人と関わっていくことができる環境を整えようと、今年度の園の目標として、「おもいっきりあそぼう!」と掲げている。

地域との関わり方については当保育園の事業計画や全体的な計画として文書化し、例年であれば、地区の老人会、ゆめっこ広場などと積極的な連携を図り子どもたちが地域の社会で様々な社会体験ができるようにしているが、新型コロナの影響を受け自粛ぎみとなっている。

そうした中でも感染対策を施しながら例年交流しているすぐ隣にある障がい者支援事業所とはフェンス越しにふれあい、近くの高齢者福祉施設の利用者あてに歌やダンスのビデオレターを送り可能な範囲で継続している。地域を拠点としているバスケットボール、バレーボール、フットサルなどのプロチームの選手やコーチも訪れ、子どもたちと交流している。

園を中心とした、公園や小学校、神社、池、川、山、城跡などのイラストと写真入りのフィールドマップがあり、天候にかかわらず午前中に散歩に出掛け、保護者を通して、地域の方の畑で遊ばせていただいたり、いちご・かりん・さくらんぼの実を収穫させていただき、また、花がたくさん咲いている庭を探検させていただいたりして様々な経験をし、地域の人々に挨拶をするなど、大人との関わりもできるようにしている。例年であれば他の保育園との交流、小学校の旗拾

い・一日入学なども実施されている。

また、「長野市子ども・子育て支援事業計画」に「乳幼児と触れ合う機会の提供」として地域の学校教育等への協力についての姿勢が明記されており、当保育園でも新型コロナ禍の中、中学生の職場体験や短大生の実習の受け入れを行っている。例年であれば地域老人会のボランティアから野菜作りの指導を受けたり、併設の子育て支援センターで行われる読み聞かせなどにも子どもたちが参加し、また、中・高生ボランティアの受け入れも行っているが、今年度は自粛せざるを得なくなっており、新型コロナ収束後には再開する予定であるという。

当園のある東条地区は農村地帯で、昔から子育てに協力的な風土があり、保育園に対する関心も高く、祖父母との同居や近くに住んでいる方も多く、行事、送迎などの協力も得られている。例年であれば地区の老人会の人々がさつま芋の栽培（苗植えから焼き芋大会まで）、しめ縄作り、どんど焼き、繭玉作りなど、昔からの慣習や行事、伝統を教えていただく機会も多い。

地域の人々との交流は子どもの発達にとって有意義であることはもとより、子どもと関わる地域の人たちにとっても、子どもに接することによって人との関わりが豊かになり、夢と希望が育まれるなどの点で有意義なものとなることから、早期の再開が待たれるところとなっている。

◇改善する必要があると思う点

1) 防犯対策も含めた安全への更なる取り組み

当保育園として不審者対策のマニュアルがあり、職員全員がそれに沿い行動できるように日頃から訓練などを通して不審者の侵入があった場合に備えている。

当園では決めておいた合言葉を放送するようにしているが、園庭の南東側は開放的で、出入りも容易であることから、防犯対策（不審者対応を含めた）を更に充実されることを期待したい。

保育所の生活が子どもにとって安全であるように、施設設備の安全点検に努めることは言うまでもなく、その上で、子どもが保育園内のいろいろな場所や遊具に関わって生み出す様々な遊びの状況を想定しながら、安全に落ち着いて遊ぶことができるように環境を工夫していくことが大切であると言われている。

子どもたちは大人が予期しない行動をとる場合もあり、様々な状況を予測して安全の確保に配慮することが必要であるとともに、保育士等と一緒に行動しながら一人ひとりの状況の中で、子どもなりに安全について考え、安全に気を付けて行動することができるように継続的に指導する必要があると思われる。

また、子どもにとって、災害時の行動の仕方や様々な犯罪から身を守る対処の仕方を身に付けることは、安全な生活を送る上で是非とも必要なことである。安全な交通の習慣や災害、あるいは不審者との遭遇などの際の行動の仕方などについては、保育園のある地域の特徴を理解し、それに対応した内容を計画的に指導するとともに、保育園全体の職員の協力体制や家庭との連携の下、子どもの発達の特性を十分に理解し、日常的な指導を更に積み重ねていくことが必要ではないかと思われる。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の運営管理並びに評価対象Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）、内容評価項目のA-1 利用者の尊重と権利擁護、A-2 生活支援（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

(令和 3年12月 1日記載)

日頃から「保育の質の向上」を目標に、職員同士保育を語ったり、園内研修を積み重ねたりはしておりますが、自分たちの保育を分析することはなかなか難しいものです。今回第三者外部評価受審により、自園の長所と短所を見出していただき、長所を職員間での共通認識として自覚することができたり、改善する点が明確になったりしました。今後職員の異動があっても、長所は「東条保育園の強み」として継続できるように、日々努力していこうと思います。

また、改善点の「防犯対策も含めた安全保育への更なる取り組み」との課題でございますが、保護者が安心して大切なお子さんを預けることが出来るように、施設的な問題もありますので、担当課に相談しながら、防犯対策の改善につながればと思います。

「地域に根差した保育園」として、48年の間、地域に親しまれてきた歴史があります。益々少子化は加速していく一方ですが、今までの積み重ねや地域の思いを大切に、今後も守り伝えていきたいと思っております。そのためには、地域の方、保護者、子ども、関係機関等と、丁寧な対応をし、「繋げる」役割を担っていききたいと、改めてこの受審を通して感じる事が出来ました。

ひとえに、評価機関のコスモプランニングさんのお陰だと存じます。

ありがとうございました。